



ネイチャーなら

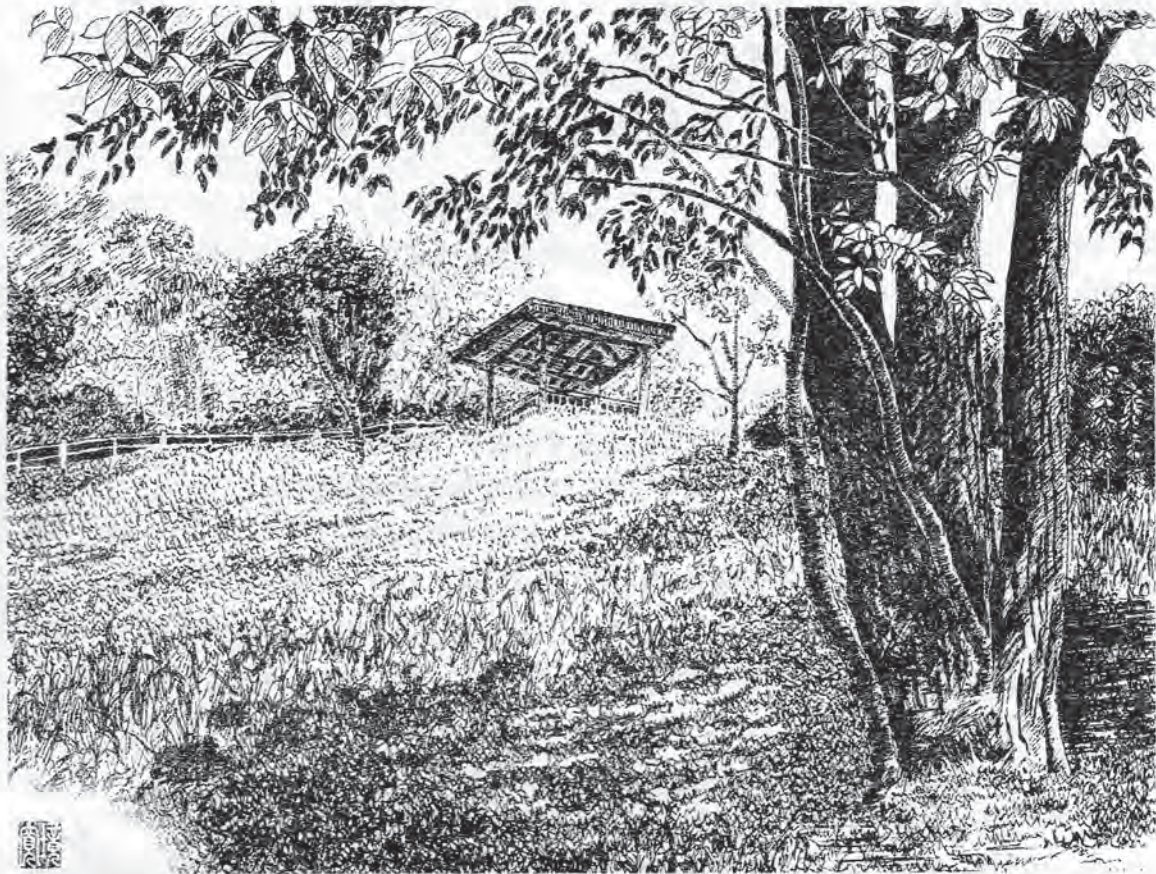
《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2011年7月1日

7月号 第114号


奈良・人と自然の会

会長 阿部和生



- * 新会員です「よろしく」②・リレー随筆「お元気ですか」
- * 奈良 NPO センターから表彰される！！<当会>
- * 活動報告<5・6月例会、自然教室チーム>・癒しの散歩道
- * ならやまくレポート、自然観察、佐保台小の田植え>
- * 天敵の真打登場「昆虫講座」⑨
- * ようこそコチドリさん・「自然をいただきま〜す」・「かわいい田圃」
- * 自然俳句・自然工作メンバー募集・地域情報
- * 7・8月の行事案内・「鳴川園地」「樹木研修会」「インプリ入門講座」
- * 今月の表紙・ペン画によせて

1	2
	3
3	~ 5
6	~ 8
	9
	10
	11
12	~ 14
14	~ 16
	17

よろしくお願ひいたします 

山岡 章宏


このたび、貴会に入会させていただき、ありがとうございます。ならやま里山林付近で昔、犬と散歩をしていましたが、現在とは比較できないほど荒れた状態でした。入会後は、ならやま大通りを通るたびに整備されていく景色の変化を、また参加できる日を楽しみにしております。

現在、私は「科学離れ」、「ものづくり離れ」などに少しでも貢献できればと思い、それらに関連する事業を行っております。ビジネス的には赤字続きです。しかし、起業以来のご縁で、たくさんの「もの」、「こと」、「新しいご縁」をいただき、感謝の日々で過ごしております。

あるご縁から「独楽づくり」も始めておりまして、東大寺の門前で売られていました「鳴り独楽」の復活を目指して、今、修行に励んでおります。将来的には、ならやま里山林の木や竹を使った独楽や木地玩具が作れたらと思っております。

活動日は他の仕事と重なっておりますので、当分は参加させていただくことはできませんが、このご縁を大切にさせていただきたいと思っております。今後ともよろしくお願ひいたします。

自己紹介


青木幸子

17期花組を修了した青木です。昨年は講座生で一年間殆ど休まずに出席しましたが、何がどれだけ身についたのか心許ない限りです。ですが、何か一つトンネルを抜けて違う場所を見つけたような気がして、毎日が楽しく充実した気分にな

っています。一年間沢山の素晴らしい人達と関わり「自然」を幅広く学んだおかげでしょうか？これから「奈良・人と自然の会」で大勢の仲間みな様と一緒に活動出来るのを楽しみにしています。


「里山に入って」


奥野 美佐子

4月末の活動日、ならやまの里はウワミズザクラやザイフリボクの白い花が満開でした。里山はトトロが住んでいるような雑木林とイメージしていたのですが、コナラやソヨゴ、クヌギ以外にも美しい花木や草花が咲く想像以上に魅力的なところだと思いました。“ならやまの四季”を見ていると、今まで通りすがりに見ていた林が、こんなに豊かな生命に溢れたところだったことに驚いています。

この冊子の植物・動物はみんな見てみようと思気込んでいます。これから季節が進むにつれて見せてくれる樹木や野の花の変化もとても楽しみです。美しい声でさえずっている野鳥たちには、一日も早く会いたいものです。

自己紹介


羽尻 高

住家：生駒市。育ち：兵庫県出石郡。前職：教員。趣味：囲碁、カヤックなど。川の魚介類の立場から考えた：私たちはいろんな個性のものがいて、あちこちに移動しながらのびのびと暮らしていたが、50年前からのずさんな河川工事でそれができなくなった。人間は草木や昆虫や鳥・動物など陸上や空中の移動ができるものには関心を向けるが、それができない川の魚介類の実態にはあまり関心むけない。残念なことだ。

ルー随筆 お元気ですか！

このごろ思うこと

活動はバイクに乗って

八木 順一

バイクに乗り出して45年が経ちました。そして、ここ平城山は勿論のこと、他の活動やレジャーにも十分過ぎるほど活用し、今ではバイクなしの生活は考えられなくなりました。

しかし事故の危険性とはいつも隣り合わせのライディング。幹線道路での転倒や川に突っ込んでの大怪我など、もう少しで・・・といったことも人並みに経験をしました。また、厳寒の中、積雪の道路をスリップの恐怖と戦いながら走ったことも何度もありました。

それでもバイクから離れられない理由は風を切る爽快さに加え、自然と一体化しているといった充実感です。毎日高度を変えていく太陽や、日々変わっていく植物の色や匂いが季節の移ろいと密接につながっていると実感できるのです。

それでも加齢とともに、バイクを操るしんどさを痛切に感じるようになってきました。できるだけ長くバイク生活を楽しむための工夫をしながら、この生活を続けていきたいと真摯に思う昨今です

高本 実男

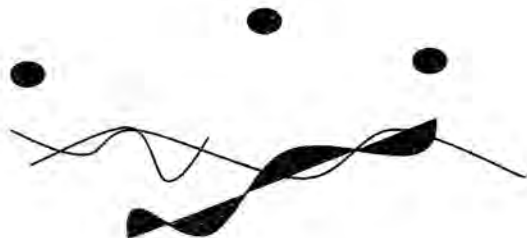
ならやまプロジェクトでの活動を始めて1年が過ぎようとしているが、最近頭に浮かぶことは、『そもそも里山は保全しなくてはいけないのだろうか？』という疑問です。

里山は『人の営みによって作られた二次的自然』と言われているが、いまの里山の危機は『人の営み』がそこではなくなりつつあることに原因があると思う。つまり、人の生活がその地域の自然とつながりがなくなってきたことに問題がある。雑木林の適度な伐採がなくなり、人そのものが少なくなり、里山文化の消失、景観の悪化をもたらしている。しかし、それは具体的に今の人にとって困ることなのでしょうか？

『里山を保全しよう』というのは、心の中にあるかつての里山の景観を取り戻そうとしているだけではないのでしょうか？

時代が進むとともに『心の原風景』に里山を持たない世代が増えると里山保全は必要なくなるかもしれない。

皆さんはどうお考えでしょうか



奈良NPOセンターから表彰される！！



わが会の「ならやまフィールド」における一連の活動が、特定非営利活動法人「奈良NPOセンター」から表彰されました。

奈良県内に活動拠点をもつ民間非営利団体50社の応募の中から、「奈良を元気にする会」9社に選ばれました。わが会の「里山景観復活と自然環境教育の実践」が評価されたものです。

6月12日に、奈良市ボランティアインフォメーションセンターで行われたプレゼンテーションと表彰式に阿部会長が出席され、表彰状と副賞10万円をいただきました。

5月例会参加報告

五条・栄山寺と花の古寺を訪ねる

土居 通子

- | | | | |
|--------|-----------------------|-------|-------|
| 1. 日時 | 5月22日(日) | 2. 天候 | 雨時々曇り |
| 3. 参加者 | 八木、川井、土居、川崎、谷川、豊島、弓場、 | 7名 | |
| 4. 担当 | 弓場厚次 豊島すみ子 | | |

近鉄吉野線・福神駅に集合。昨日の天気予報では降水確率30%が今朝7時は80%だったとか。そのせいか、参加者は7名で近畿自然歩道の地図を頂き9時40分出発。駅前は広い公園になっており、金剛山、葛城山が大きく見えますが、何時も見ているより低く感じたのは、福神駅が山の中腹にあるからだろうと思います。今日の行程は最初に少しずつ上がり、後は下りばかりとの由。住宅地を抜けるあたりで雨が激しく降り出し、大樹の下で雨宿り。ラッキーなことに眼前に大木のウケザキオオヤマレンゲの花が咲き競い、目を楽しませてくれました。雨も小雨に成り歩き始めると、畑ではジャガイモの花が咲き、夏野菜が育っておりました。阿田明神社の近くに来ると、テンダイウヤクが群生しているのを初めて観ました。明神社で小休止の後、正面の急な石段を下り長閑な田園の中を阿陀比売社へ。崇神天皇の建立、破れ土塀の風情のある社でした。少し行くと、畑では黒花ロウバイが花を沢山付け、ここら辺りから吉野川沿いに進みます。「魚のどき」の箇所からは川辺の崖に木が茂り、川が見えません。その昔は、そこから魚の泳ぐ姿が見えたのでしょうか。又「のどき」はこの地方では「ぞ」の事を「ど」と発音しているのだと吉野出身の方に聞いた事があります。昼食の「水辺の広場」には予定通りに到着し、大きな東屋の下でお昼ご飯をゆっくりと頂きました。運の良い事に昼食時は、すごい吹き降りでしたが出発時には小降りとなり、一路「栄山寺」に向いました。

藤原武智麻呂が719年に創建した当山も吉野川の清流を膝下に、国宝の八角円堂、梵鐘等の山を背にした静かな佇まいは、なんとも古りた風情があります。梵鐘には罫が有り、今は撞かれて居ませんが京都神護寺、宇治平等院の梵鐘と共に平安三絶の鐘とされています。境内には句碑がいくつか在り、どの句も胸に響くものばかりでした。栄山寺を辞すると、西の空は青空になり、金剛山、葛城山には霧が山を駆け上がるところで、新緑の美しさは一層のものでした。



学鳥山 栄山寺 国宝・八角円堂

[自然教室チーム活動報告]

その①

楽しく自然観察会を実施

5月24日(火)朝方の土砂降りの雨に不安を感じながら、「大和郡山市少年自然の家」に向かいました。参加者は12名。私たちに味方した太陽がそっと顔を見せて絶好の観察日和となりました。

講師は、こおりやま野遊びサポーターの山口明夫さん、御宮知伸彦さん、浅野愛子さんの3名。植物についての知識はもちろん、楽しい野遊びを教えていただけると聞いて、



わくわくしながらの出発です。早速、サクラ属の蜜腺のことやカラスビシャクの受粉作戦の話に驚きの声が上がりました。「キキョウソウ」と教えていただいた道ばたに咲く小さな紫の花は、「ベニバナユウゲショウ」や、「ニワゼキショウ」など、日本の地にしっかり根付いて生きる花たちと同じく外来種だそうです。見た目のよく似た親戚筋の草「ハハコグサ、チチコグサ、チチコグサモドキ、ウラジロチチコグサ、ウスベニチチコグサを道に並べてその違いについても教えていただきました。

赤く色づいたクサイチゴの味に皆の頬がゆるみ、さらにスイカズラの蜜を吸って「なつかしー!」の声も。カンゾウの葉を使った「かのう織」の仕方やそれを基にした風車作り、ヤエムグラの頭飾り、笹の亀、クズの葉のポンなどの遊びを教えていただき、テイカズラの花で風車を作り、カラスノエンドウでピーピーと 笛を鳴らす頃にはすっかり子どもに返っていました。イタドリ、タンポポでも笛ができることや、キジ笛、巻笛の作り方を教えていただいて、昼食の後もピーピーピー、賑やかなこと。最後に講師の先生が、葉っぱ1枚で音階をつけて鳴らされたのには、皆でびっくり。本当に楽しい観察会でした。

その②

育英小学校で校庭観察会を実施

5月31日(火)育英小学校1年生26名と2年生23名を対象に、「校庭の草木と仲良くしよう!」のテーマで校庭観察会を実施しました。スタッフは10名。取り上げた植物は、1・2年生共通で、アオキ、クスノキ、カラスノエンドウとスズメノエンドウ、カタバミ、ヤエムグラの5ポイントとし、2年生はシロツメクサと花いくつを加えて7ポイントとしました。2年生はミニ自然工作で「もっくん」を作り、1年生には、スタッフが心を込めて作成した「えんぴつくん」をプレゼント。子どもたちは大変喜んでくれました。

生活科の授業で、春の草花を学習中の子どもたちは、とても知識欲が旺盛で、積極的に参加をしていました。葉っぱに字を書いたり、10円玉磨きを楽しんだり、匂いを嗅いだり、五感を使った楽しい観察会になったと思います。観察会を終えて教室に戻った2年生の子どもたちに、たくさんの質問を受けたスタッフが、どう答えようかと四苦八苦する場面もあり、私たちももっと勉強しなければと思った1日でした。



(平岡久美 記)

梅雨の合間の曇り空となった6月15日(水)、矢田寺からこどもの森を経由して大和民俗公園にいたる道を歩いた。梅雨時のこと、10名も参加者があればよいのかなと思っていたが、実際には23名の方に参加をしていただき、幹事としてはうれしかった。

まず矢田寺の険しい階段を登り、ほっと一息ついたところで、千仏堂の霊水をいただき、喉を潤した。ついで1万株といわれるさまざまなアジサイを鑑賞した。まだ全山満開というわけではないが、青や赤の花々がお地蔵さんの赤い前かけとよくマッチングしていた。

矢田寺を後にしてさまざまな自然を楽しみながら東明寺へ歩いた。名



前を知らぬ植物や蝶が多いが、お互いに知っているものは教えあって進んだ。テイカカズラやユキノシタの花、ニッケイの葉の匂いなどを楽しんだ。平岡さんがテイカカズラの風車を実演してくれたが、きっとこどもたちにも喜ばれるだろう。そういう夏タケの勢いのすさまじさにも圧倒された。

東明寺での休憩後、最後の登りを経てこどもの森へ。そこで昼食ならびに休憩。下からずっと登りのコース選定となったため、結構疲れた。子供交流館で腰を据えてゆっくり休憩できるのは有難かった。またここにはさまざまな散策コースの地図が用意されていて良かった。

後半を歩き始めるにあたり、ウメモドキ、ナツハゼを古川さんに教えてもらった。小さく可憐な花々である。ツリバナも小さな実を多数ぶらさげていた。

途中では5月の観察会で教えてもらったキジ鳴き笛、葉笛、葉巻笛などを鳴らしながら、邪馬台国想定地の碑まで歩いた。「こんなところに邪馬台国の伝承があるとは・・・」とか「大和郡山市の卑弥呼コンテストに誰か出ないか」などと話しながら大和民俗公園へと向かった。途中で樹皮部分を帯状に切り取られたクヌギが何とか生き残っている姿に感銘を覚えた。また珍しいヒオドシチョウが見られた。

大和民俗公園では民俗博物館が初めてという方が多かったため、みんなで見学した。65歳以上は入場無料という心遣いがうれしい。見学が終ってほぼ予定の2時半過ぎとなり、ここで解散した。なお希望者は引き続き花菖蒲園を見学した。

結構疲れた一日となったが、何はともあれ天候に恵まれ、全員無事に歩くことができてよかった。参加された皆さんに感謝したい。(倉田記)

<癒しの散歩道>



しぐれる心は梅雨模様

谷川 雅邦

玉露に濡れし青葉が光る庭先
優しさ愛おしいやらずの雨が
偲ぶれど姿をみせぬ夏は何処
何を恨もう垂れこめる雨雲に

人恋しさに色鮮やかに咲く紫陽花の
軒先からそおっと小声で語り掛ける
さぞ遥けき彼方で雨乞いする夏の陣
見上げる空には虹色に輝く時が来る

ならやまプロジェクト・レポート 23年6月

5月26日(木) 曇り 参加者31+2名

里山Grは北斜面(D2、D3)の基礎整備作業。
農園Grは豌豆、タマネギの収穫と6月2日の佐保台小学校田植え実習の準備作業。景観Grは周辺草刈り、ならやま大通り南法面整備と花畑・花壇の整備。

大理学部院生(2名)オオミズスマシ調査に来訪。

5月31日(火) 予備日 曇り 参加者7名

自転車道路草刈り。田植え実習の最終準備をする。

6月2日(木) 曇り 参加者39+21名

午前中、森林総合研究所関西支所、奈良県森林技術センター、奈良県農林部森林保全課から、ならやま里山林の調査に来られ、ナラ枯れの調査方法などの指導を受けるとともに今後の取組みについて意見交換を行った。

既に近くの三笠温泉地区にナラ枯れが発生しており、関係者は「カシノナガキクイムシ」の飛散拡大を危惧するも、有効な対策が見いだせず苦慮されていた。

里山Grは、ナラ枯れ調査の準備作業として、観察路に沿って30区画に分け、杭と紐で分けの明示を行った。



農園Grは、午前中は大蒜、タマネギ、豌豆の収穫と収穫後の耕耘をした。景観Grは草刈り、南ピオトープの水路を整備。

午後は佐保台小学校の15名の生徒を迎えて、恒例の「田植え実習」を賑々しく行い、盛り沢山な一日であった。奈良TV、読売、サンケイの取材あり。



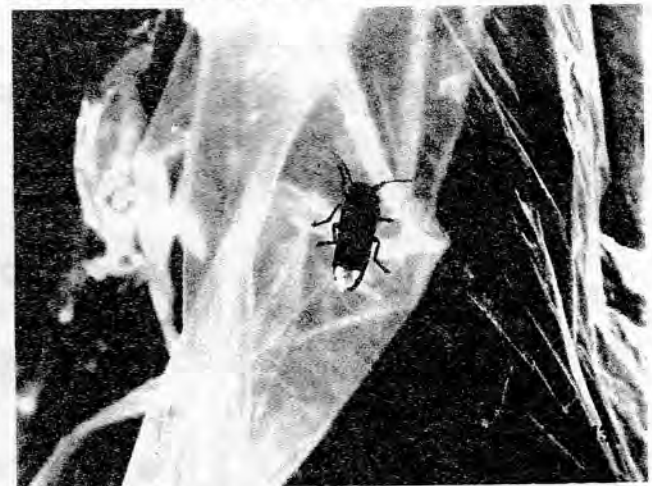
6月9日(木) 晴れ 参加人員38+3名

里山Grは区分けの明示とナンバリングを実施。
農園Grは、会員用水田の田植えおよび玉葱・豌豆などの収穫と堆肥づくりを実施した。

景観Grは自転車道沿いの植樹計画の下打合せ、午後から人手を集めてならやま大通りに面したA地区の不要な竹木を伐採した。

6月13日(月) 晴れ 参加人員12名

ならやま蛍鑑賞会(臨時)。ゲンジボタル6匹確認。
「街灯などの明かりのない『ならやま里山林』では、蛍の光がこんなにも明るいのか驚いた。」参加者談。



6月18日(土) 小雨 参加人員24+9名

シニア大学校講座生7名の教育実習。

里山Grはナラ枯れ基礎調査のため、コナラー一本一本にナンバリングを行う。

農園Grは茄子枝釣り、ネギ植付け、大根種蒔き。
景観Grは花壇(百日草、ヒマワリ)の整備、周辺の草刈り、ピオトープ定時調査。(藤田 記)

ならやま里山林自然観察レポート

ならやま里山林花だより

山中笙子

5月15日～6月17日、早い梅雨入りで木々の緑も日一日と色濃くなりすっかり夏の装いです。奥まで見通せる木立はくっきりと品さえ感じられる美しさです。

この季節、ネジキ（ツツジ科）は濃茶色に捻じれた樹皮からは想像できない程、愛らしい白い小さな釣鐘形の花が、きれいに並んでぶら下がり咲いています。



【草花】

ケナシマンテマ、マツヨイグサ、オオバコ、ヘラオオバコ、ムラサキカタバミ、シロツメクサ、アメリカフウロ、ヒメコバンソウ、コバンソウ、コナスビ、ユキノシタ、タツナミソウ、ニガナ、ユウゲショウ、クスダマツメクサ、ミヤコグサ、クララ、ノアザミ、イヌガラシ、イヌホオズキ、ネズミムギ、カモガヤ、コモチマンネングサ、ホタルブクロ、チガヤ、チチコグサ、ウラジロチチコグサ、チチコグサモドキ、ハハコグサ、オヘビイチゴ、ドクダミ、オニタビラコ、ヒメジョオン、アレチギシギシ、ギシギシ、トキワハゼ、ムラサキサギゴケ、ニワゼキショウ、カラスビシャク、キンエノコロ

【木の花】ハリエンジュ、タカノツメ、ノイバラ、カキノキ、センダン、ソヨゴ、ネジキ、イソノキ、クリ、イヌツゲ、ツルアリドオシ、クワ（実）

【ビオトープ】ガマ、イ、ショウブ

【花壇】紅白アスター、昼咲きツキミソウ、ニゲラ、ヤグルマソウ、ノカンゾウ、キキョウ、キンセンカ、ハナビシソウ、ナデシコ、マリーゴールド
ムラサキシキブ（蕾）、フジウツギ、シモツケ（木本）

ならやまの鳥だより

小田久美子

6/13は前日の豪雨の翌日で、水の流れる音が激しかったです。菊川さんと二人で回り、15種56羽カウントしました。

先月は、あちこちでキビタキの歌声が響いていましたが今月は静かでした。代わりに3年続きでホトトギスの周回する声が聞こえ♪夏は来ぬ♪でした。

里山に元気っ子の声こだま

◇◇◇佐保台小ファーム（3年目）

ならやまの水田は、昨年までの所は湿田状態のため、今年から一段高い場所に変更した。水管理等も便利になったが、湿気抜き用パイプが埋設されていたため、その対策に一苦労した。本格的な畦捏ねや畦板シートの敷設等も行い、畑から水田への転換が5月下旬完了。例年になく早い梅雨入りや昨年の猛暑による生育への影響等を考慮し、担任の先生と事前学習からの約半年間にわたって日程調整。6月2日、降水確率50%予報に、やきもき。気象庁レーダー・ナウキャストの動画表示で雨雲の様子を確認、奈良北部を避けてくれるとの予想を信頼し実施を決定した。

幸い絶好の日和になった午後、15人の元気っ子達の声が、ならやまにこだました。田植えの要領について説明を聞き、一人当たり約150株の植え付けにチャレンジした。初めは戸惑いがちだったが次第に慣れ、手際よく田植えが進んだ。

早速、初めての体験について感想文を寄せてくれましたので、内容を抜萃してみました。

- ◇ 田んぼに入った時、「うわーめっちゃ気持ちええわ!」と思った。
- ◇ はじめはうまくいかなかったけれど、手付きが良くなるにつれて楽しくなった。
- ◇ 水田には、ヤゴやシオカラトンボなど沢山の虫などがいてびっくりした。
- ◇ はじめて田植えを経験してみて、農家の人はすごいなあと思った。
- ◇ 自分たちが植えた稲が、秋になって穂り、おいしいお米になるんだなあと思うと、とても楽しみです。
- ◇ 少し疲れたけれど、植え終わった時は、とてもすっきりとした気分になりました。
- ◇ 秋に収穫した時、「わたしたちが奈良・人

と自然の会の人たちと一緒につくったお米やで!」と言って、家の人に食べさせてあげたい。

- ◇ 途中で少しだけ腰が痛くなったけれど、もう一回田植えをしてみたい!と思った。
- ◇ 田んぼが広いなあと思ったけれど、植え終わった時には、「やったぞ!」「もっとやりたいなあ!」など、達成感がわいてきました。
- ◇ 自分が植えたところの稲のめんどろをできるかぎりみるようにして、おいしいお米を収穫したいと思っています。
- ◇ 水田が、とてもきれいになっていたのびっくりした。後でトラクターで代掻きをするのをみせてもらい、準備をするのに大変なんだと思った。

ときどきわくわくしていた様子など、初めての体験から感じたことを率直に表現してくれています。そして、これからの体験観察学習を楽しみにしている様子などが、どの感想文からも伝わってきます。



7月下旬に生育観察、秋には稲刈り、稲架け、脱穀、粃摺りなどが予定されており、これらの体験をきっかけにして、子ども達が農業に対して興味関心を抱いてくれるものと確信しています。さらには、食の安全や食料自給率の問題などの発展学習に、積極的に取り組んでくれることを期待しています。

(文責 鈴木末一)

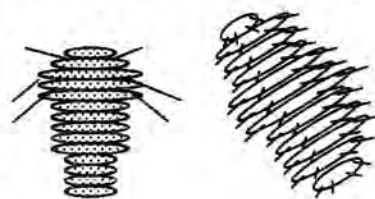
天敵（益虫）の真打登場

—やさしい昆虫講座（第9話）—

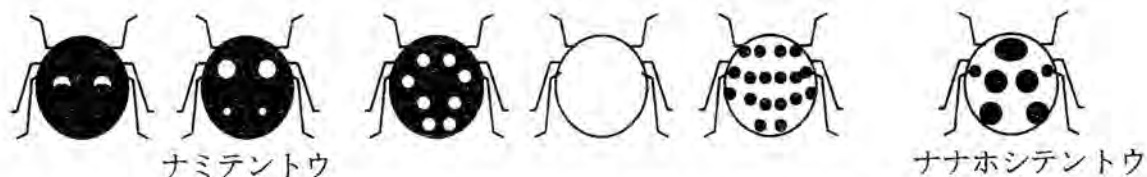
木村 裕

日本にはテントウムシが 160 種あまり知られており、前回取り上げたテントウムシダマシなど約 10 種類は草食性ですが、残りの 150 種は肉食性で主としてアブラムシを常食にしています。成虫も幼虫もアブラムシの集団に分け入り、次から次へとアブラムシを食べます。非常に大食漢で葉や茎にぎっしりと行列して会食・歓談をしていたアブラムシ一家も無残にもあつと言う間に食い尽くされます。無農薬栽培をする農家の中には、このテントウムシを草むらから集めてきて、ビニールハウスの中に放し、アブラムシ防除に利用しているところもあります。しかし困いのない普通の畑では、せっかく集めてきて放しても、すぐに何処かへ飛んでいってしまうので思惑どうりな効果は期待できません。

成虫は半球状の虫で知らない人はいませんが、幼虫を知っている人は少ないようです。この幼虫を害虫と間違えてせっせと捕まえて処分している熱心な家庭菜園愛好家も少なくありません。幼虫の姿を覚えてください。成虫から想像できるような美人ではありません。どちらかと言えばグロテスクな姿をしています。灰色でダンゴムシを押しつぶしたような形の虫ですが、中には体全体に棘をいっぱい備えた虫もいます。それゆえアブラムシの集団の中に変な虫がいるのに気づいたときには天敵だと思って保護してください。まず 99%間違いはありません。またヒラタアブ（ハエの仲間）の幼虫もアブラムシの有力な天敵ですが、醜い姿をしています。しかし、みんなみんな無農薬栽培者を陰から支えるボランティア精神旺盛な協力者です。



皆さんに最もなじみのあるのは、背中に 7 つの黒紋を装ったナナホシテントウですが、何処でも普通にお目にかかるのは黒色で背中に赤い 2 つの紋をつけたナミテントウです。しかし体色と模様にはバリエティがあり、4 つの赤紋タイプ、8 つの赤紋タイプ、全体黄色、黄色地に 18 個の黒紋をもったタイプなどいます。白人、黒人、黄色人種などが混在する人間族と同じです。



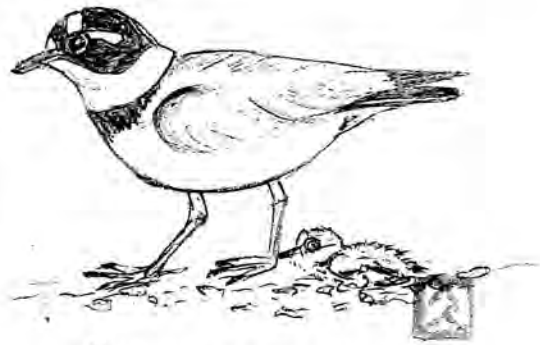
テントウムシの仲間にはアブラムシよりもカイガラムシが好きな種類もあります。その一つがアカホシテントウです。幼虫は棘いっぱいの恐ろしげな虫です。昨年ならやまの梅の木にびっしりと寄生していた丸い玉状のカイガラムシ（タマカタカイガラムシ）を食べてくれ、梅の木を守ってくれました。今年も発生して梅の木を守ってくれ、そのせいかカイガラムシの姿はほとんど見られません。協力に感謝！ 年末には何らかのお礼を考えるべきです。

アブラムシは言うまでもなく、ハダニ（葉から汁を吸うダニ）も食べるコクロヒメテントウの幼虫は、体が白い綿状物に包まれていて、害虫のコナカイガラムシに非常によく似ているので、この虫が天敵であることが分かる人はほとんどいないでしょう。ならやまではサトイモで活躍してくれています。見かけは悪くてもこのように役に立つ虫はたくさんいますので、相手をよく見極めてから処分を考えてください。

とりにシリーズ

ピオトープによろこそ **コチドリ**さん 小田 久美子

5月、「田んぼにコチドリがいたよ」と古川さんから報告がありました。6月の観察会の日には会えませんでした。カワセミを見たとも聞くと、ならやまにピオトープが溶け合って、里山再生が順調に進んでいる様子が分かります。生き物たちが認知してくれた吉祥です。シギやチドリの仲間の多くは春秋、日本の干潟を中継地に旅をするものが多く大きいものは60センチもありますが、コチドリはその名の通りチドリの仲間では一番小さく、この辺りでは年中見ること多い鳥です。(けたたましく鳴いてお馴染みのケリも大きいチドリで年中見られます)山を削って荒地のままになっていると、何処からかやって来て子育てをします。学研登美ヶ丘駅辺りでは、バブル崩壊の後の20年近くが荒地のまま放置され続け、セッカと一緒に子育てが見られました。コチドリが居ついてくれたら旅の途中のチドリの仲間や、もしかして・・・シギの仲間も休憩してくれるかも知れません。いえいえ、大風呂敷ではありませんよ。平城宮跡や水上池でも珍しいシギ・チを確認していますから。



「じっとしていろさいね」「へい!!」

アメンボウ：稲子さん、あんたらもっと真直ぐ並ばんかいな。なあ、紐さんもそう思うやろ。形悪いがな。

稲子：だって5年生が初めて植えてくれたんやからしやあないやろ。

アメンボウ：そんなこと俺も知ってるよ。紐さんもまだ張ってくれてるんやし、頭だけでも並べる気にならんか。俺平泳ぎで真直ぐ軽快に泳いでみたいんや。

稲子：何よ。格好づけて、カエル泳ぎやないの。その内に私らの株が増えたら、えろう狭くなるわよ。

アメンボウ：そうなん。そやったら今の内に思いきり泳いどこーと。

紐：まあまあ、これから長い付き合いせんならんし。稲子さん達には、ようけ赤米作って子供達に喜んでもらえるように頑張ってもらいたいし、アメさんはよう練習して子供達につかまらんようにしなはれや。

それから、この田圃も太陽や大地・雨などの恵みをうけてるんやから、よう心せなあきまへんで。

かわいい田圃



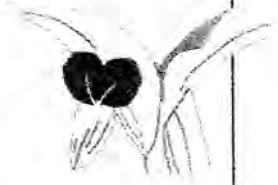
竹本雅昭



自然をちょっぴり いただきま〜す

西谷 範子

さて露草の季節です。葉の先の水孔から露が出るので露草。
この草は地方によって呼び方が多い。アオバナ、ツキクサはよく知られているが、この花を布に着けて染料にしたので着草→月草とも。今、友禅の下絵を描くのに使われるオオボウシバナはツユクサの変種。



この草はアクが無いので何にでも使えます。茹でておひたしにすると、少し甘味もあります。他のやさしい野菜と合わせて和え物や炒め物にしてもいいです。茹でて水にさらすと、ヒスイ色のきれいな水が出来ます。この水は時間が経っても変色しません。もちろん茹で汁も使えますが、お菓子を作る時は塩を入れないで茹でるようにしてください。

少し暖めて砂糖を入れて溶かし、ゼリー粉（寒天でもいい）を入れてきれいなヒスイゼリーを作りましょう。冷蔵庫で冷やして、もう少しで固まる前に、青い花びらを浮かせます。つゆくさの花は午前中は咲いていますが、午後遅くなるとしぼんでしまいますので、早く摘んでください。

砂糖を控えめに作ったゼリーに、5月に作ったクサイチゴの赤いジャムをトッピングしてみました。ウ〜ンおしゃれ！

調子に乗って今度はゼリーに、作り置きしてある山桃の果実酒を少しかけてみました。

ふぎゃー☆ 高級菓子に早変わり、いけます☆☆

ジャムや果実酒は少し赤いものが薄い緑色のゼリーに似合います。ヒスイ色を濃くしたい時は、茹でたつゆくさの葉をつぶしてその汁を入れるとどんどん濃くできます。葉をきれいにすりつぶして混ぜると、濃い緑色になりますから、他のお菓子にすると一見ヨモギのように見えますが、ヨモギのような風味はありません。

つゆくさを摘む時は、花の下の二つ折れの苞をつまんでみて、中の種がつぶれる位の時が頃合です。中の種が硬くなると、葉も茎も硬くなってきます。

採る時は指で茎が折れるぐらいの先の方だけ摘んで使います。

ツユクサは全草が湿疹、解熱、下痢止めの薬草でもあります。



どんよりとは雲の色か重さか
雨には色はなさそうだが、目に見える
お蔭で地上に主役の花が咲く
こんな時候にも面白きかな

竹本雅昭



茄子の苗紙行灯と突き破る 鈴木 未一

茄子の成長著し。紙の覆いを破る程。丹精の実りの日が待ち遠しい。

代掻きと待ら^{ほう}惚けたり八咫鳥 鈴木 未一

田圃の春耕が始まる。土に眠る生き物を狙う鳥たち。奈良の鳥はみな八咫鳥、さしづめ耕人は、神武天皇か。

佐保山のふもとで賞ふ蓬餅 川崎 和江

例会の一句。歩き疲れに甘いものは最適。蓬餅に春の季感が漂う。

雑されてなんじやもんじやの花に酔ふ 川崎 和江

観察会ではいつも話題になる木。地方の珍木・巨木を指して言う。アンナモンニャとも。ヒトツバタゴもその一つ。姦しいひととき。

まぼろしの鐘の音かほる青時雨 土居 通子

卯の花腐し天蓋の剥落す 土居 通子

5月例会。奈良南部 五条の地を歩き、栄山寺を訪う。天平の国宝に酔う。最古の梵鐘・八角円堂・古仏など。

当日は、梅雨の走りで見どりの滴りの洗礼にあう。「卯の花腐し」の季語の幹旋が憎い。

そば打らの指先撓る皐月かな 川井 秀夫

若葉光そば打つひとの真顔かな 川井 秀夫

「そばクラブ」の研修会に参加。五月晴れ、厨房の窓辺に若葉が噓せる。揉む、練る、延ばす、剪る、メンバーの真剣な面持ち。越前そばの出来は上々。一献を傾け、美味、美味。

今年度になってから4月24日(日)に奈良公園登大路園地でのアースデイ、5月22日(日)に黒姫山自然塾でそれぞれ自然工作(ブンブンゴマ、セミ太郎、クマのブローチ)を出展してきました。

奈良・人と自然の会の活動が広く認められるに伴い、各方面から自然観察会や自然工作の出展を要請されるようになって参りました。

今後の予定として、

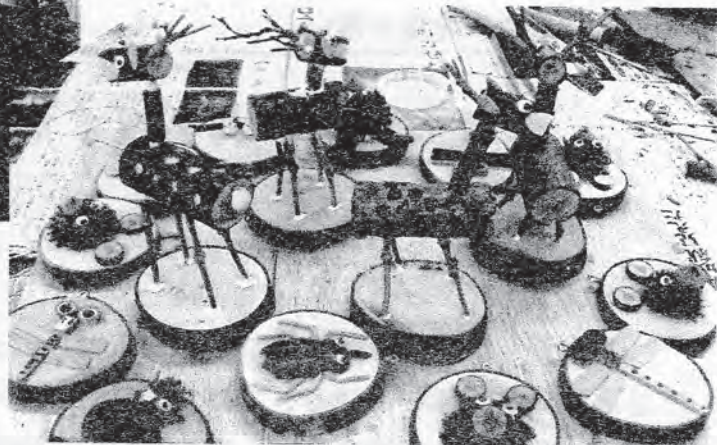
- 7月18日(月) 吐山(はやま) 青少年野外活動センター 竹を使った自然工作
- 30日(土) 「山と森の月間」の公開イベント 「里山の昆虫と自然工作」
- 8月28日(日) 「山と森の月間」の公開イベント 「ならやまの自然観察と自然工作」
- 9月 7日(水) 校庭観察 昆虫&自然工作
- 10月 5日(水) 校庭観察 植物&自然工作
- 11月20日(日) 全国育樹祭

と矢継ぎ早に、各種イベントへの出展要請や、自然教室での活動が始まります。

自然観察会と自然工作が一体となって初めて、子供たちに自然への関心を引き起こすことが出来ると思います。「奈良・人と自然の会」の活動を更に力強いものにするため、自然工作の分野においても、皆さま方の特技を生かして、子供たちの自然への関心を拓けることが出来ればと思い、自然工作メンバーを募集することになりました。

参加いただける方は藤田までご連絡いただきメンバー登録をお願いいたします。イベントの1カ月前から、アイデアの募集、材料の調達、見本の作成、下準備、当日の参加のご案内をメールでいたします。各段階で、出来る範囲でご協力をいただきたく、皆さまの積極的なご参加をお待ちしています。

平成23年7月1日 藤田 秀憲



★（樞原）6月19日キジの卵が御所の畑のツツジの木の下 草に囲まれた巣に4個。薄茶色で大きさは4cm×2.5cm位。14日行った時 キジが聴いたことのない声で鳴く。「巣があるからこないで！」とでもいってるような……。帰りに巣を探すがない。今日の卵で疑問が解明。キジパパが鳴いていたのは卵と全く逆の場所で畑の端。なんという知恵と感心しきりの私。

初めてキジの卵をみてうれしくなっていました。携帯でカシャ。毎年キジママが飛びでて雛が飛び出したり雛が先に兄弟でバタバタ飛び出るのはみるけど卵は……。草だらけでミミズがいっぱいのうちの畑がお気に入りのキジです。これからが楽しみ そっとして置きます。
（斎藤）

★（斑鳩）お隣から「カラスがビワを食べているよ。」と聞きました。散歩から帰ってくると、黒いくちばしに黄色のビワをくわえたハシブトガラスが飛んで行きました。証拠みつけた。

・竜田川でピーピーと聞き慣れない鳴き声
声を頼りに探して探して・・・イ



ロハモミジの中にシジュウカラのヒナを見つけました。じっと見ていると大きな幼虫をとり、足でしっかりと押さえ、食べ始めました。もう自分で生きてゆけますね。

（勝田）

行事案内

※原則：前日午後7時前のNHK 天気予報で、降水確率(午前)60%以上の場合は中止

※当会の行事における傷害事故等については個人負担とし、当会は賠償等一切の責任は負いません

『ならやま里山林プロジェクト7月・8月の予定』

場所 奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林（JR 平城山駅下車徒歩10分）

—「ならやま会館」前の道路（ならやま大通り）の南側に広がる林地—

日時	7月 7日 (木)	活動日
	7月14日 (木)	臨時山の日
	7月16日 (土)	活動日 (教育実習生受入)
	7月21日 (木)	活動日
	7月28日 (木)	活動日
	7月30日 (土)	「山と森の月間」公開イベント (里山の昆虫&自然工作)
	7月31日 (火)	雨天予備日
	8月 4日 (木)	活動日
	8月11日 (木)	活動日
	8月18日 (木)	臨時山の日
	8月20日 (土)	活動日 (教育実習生受入)
	8月25日 (木)	活動日
	8月28日 (日)	「山と森の月間」公開イベント ((里山自然観察&自然工作)

集合 現地ベースキャンプ地 9時 終了予定 3時

インタープリテーション入門講座のご案内

自然教室チーム



インタープリテーションとは「自然の不思議や魅力を楽しく、分かりやすく伝える活動」のことです。私たちがどの分野で活動する場合でも求められる、基本的な技能です。

インタープリテーションを楽しく経験し、今後の活動に活かしていただくため、昨年に引き続き、『インタープリテーション入門講座』を、下記のとおり開催いたします。

奮ってご参加ください。

1. 日時：7月19日（火）10時～15時 （少雨は実施）
2. 集合場所と時間：10時 ならやまベースキャンプ
3. 対象ならびに募集人員：20名
 - * インタープリテーション活動に興味をお持ちの方
 - * 小学校の「校庭の自然観察」を児童と一緒にしてみたい方
4. 担当：自然教室チームのスタッフ
5. 内容： ①インタープリテーションとは？
②スタッフによる実際の自然案内活動
③受講者による実習
 - * ならやまフィールドの中のいくつかのポイント（7～8程度）で、
 - * 小学生やファミリー、シニアなど、いろいろな対象層を想定して
 - * どんな話し方で自然の不思議や魅力を伝えるかといったこととお互いに実習します。
6. 持参するもの：昼食、飲み物、メモ、雨具など、通常の授業に持参するもの
7. 申込み：7月12日（火）までにFAXまたはメールで申し込みをしてください。



倉田 晃

<8月の予定>

8月度例会 森林総合研究所 関西支所・樹木研修会

昨年の8月に開催致しました研究所での「講演会と樹木観察会」を、本年度は京都伏見の独立行政法人・森林総合研究所 関西支所のご厚意で開催致します。講演会は①『里山』と②『森林』のテーマをお二人の先生に講義を賜り、「樹木園」では多様な樹木の観察指導を頂く予定です。皆様のご参加をお待ちいたしております。

- | | | |
|-----|---|----------|
| 日時 | 8月29日（月） | 午後1時より |
| 集合 | 近鉄丹波橋駅・東口出口前 | 午後12時30分 |
| | ・ 橿原神宮前<京都行急行>11：07…西大寺11：37…近鉄丹波橋12：11 | |
| | ・ 天理<同上>11：32…平端11：38…西大寺11：50…近鉄丹波橋12：22 | |
| 講演 | ①「里山の保全と管理」 | |
| | 森林資源管理研究G 主任研究員 | 奥 敬一 先生 |
| | ②「最近の森林の管理方法」 | |
| | 森林生態研究G グループ長 | 奥田 史郎 先生 |
| 観察会 | 樹木園・樹木観察会 | 奥田 史郎 先生 |
| 担当 | 阿部 和生 | 弓場 厚次 |

平成23年6月度幹事会報告

日時：平成23年6月7日（火）18：00～20：50

場所：奈良市中部公民館

出席者：幹事16名、顧問1名 計17名

(1) 現在会員数 132名

(2) 「ナラ枯れ」予防対策・調査

会の「特別プロジェクト」とする。6月より活動本格開始。

(3) 植樹（「佐保自然の森」、「自転車道路脇」）準備開始。

(4) 行事予定

①例会 8月29日「森林総合研究所」、10月17日・18日「木曾路一泊研修」

②公開イベント 7月30日「昆虫観察会」、8月28日「自然観察と自然工作」

③出展 7月18日「山と森の月間」（竹水鉄砲づくり）

表紙のペン画によせて

境 寛

真夏の昼下がり、大淵池公園(東公園)には、子供一人いない炎天下で蟬時雨がやかましく、ひときわ暑苦しく木陰にどっかり腰を下ろしたのがこの光景でした。

大淵池公園は奈良市の西部に位置し、あたりには閑静な住宅地が広がっていて、緑が豊かで四季折々に楽しめる県立公園です。公園そのものも東と西に分かれて大変広いのですが、近くに大淵池、松伯美術館、御嶽山大和本宮、佐保川の支流秋篠川と散歩に事欠かないところではあります。

編集後記：*梅雨が明ければ今年も暑い夏のようなようです。おまけに今年は節電も言われています。熱中症にならないために、やや暑いと感じるこの時期に、1日30分、早歩きウォーキングなどの運動を週3回続けることによって、汗が出やすくなり、暑さに強い体質になるようです。でも、無理は禁物です。体を休め、こまめに水分・塩分の補給も忘れないようにしてください。

*会報発送作業・編集会議日：8月号の作業は7月27日（水）午前9時から「西奈良ボランティアセンター」で行います。毎回多くの会員の方々のご協力をいただいております。今回もよろしくお願いたします。

編集担当：勝田 均